

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校 自己評価表

教育目標	「ひたむき」「誠実」「謙虚」の学校づくり 社会人として求められる確かな学力や豊かな人間性を身につけさせ、自己の将来を見つめた職業観・勤労観に基づく進路実現を支援すると共に、「国際性・社会性・実用性」を重視した教育を推進し、国際的視野を持った、社会に貢献できる人材の育成に努める。		
目指す学校像	1 生徒・教職員、共に学び続ける学校 2 生徒・教職員の信頼関係が構築された学校 3 懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を実践する学校 4 一人ひとりの個性に応じた多様な進路実現が図れる学校		
重点項目	重点目標	達成状況	
学習指導の充実	本年度から新しい教育課程が新1年生から学年進行で実施されることを踏まえ、その変化に対応した指導内容と指導方法の研究を継続して実施する。		
	(1) 教師としての教科の専門性、指導技術の向上を図るために、「学び続ける教員」としての自覚をもち、日々研鑽に励む。	A	A
	(2) 「楽しく・わかりやすい授業」にすべく、校内研修(研究授業)や自主研修(教材研究)に励み、教科の指導内容、指導方法の工夫・改善を図り、授業を充実させる。	A	
	(3) 本年度をICT教育2年目と位置づけ、教科指導にiPad等のICT機器(ツール)を積極的・効果的に活用し、「楽しく・わかりやすい授業」を実践する。	A	
	(4) 少人数指導や習熟度別指導を生かして懇切丁寧な指導・きめ細かな指導を行い、基礎的基本的な内容や発展的な内容の定着を図る。	B	
	(5) 生徒の家庭学習の習慣化を図り、予習・復習の学習習慣を定着させ、確かな学力の向上を図る。	B	
	(6) 課外授業の充実を図ると共に、生徒の自主学習を支援し、生徒自身の学びを深める。	B	
キャリア教育の推進	(1) 自分の将来設計・将来展望の中に建設的に上級学校等への進路を位置付け、自分の将来に対して夢や希望が持てるよう指導する。	A	A
	(2) キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、進路別見学会、進路講演会、大学出前授業などの機会を提供し、進路(進学・就職)に対するしっかりとした動機付けを図る。	A	
	(3) 個々の生徒の進路希望、学力の実態及び今後の発展性などを常に把握しながら、より上位の進路目標を設定させ、その達成に向け全力を傾ける。	A	
心の教育の推進	(1) 生徒への気配り・心配りなどの配慮を旨とし、生徒理解のための教員と生徒との一対一の関係を重視した教育相談を日常的に実施し、生徒との信頼関係を構築して、心の教育を推進する。	A	A
	(2) はるかぜ道徳を通して、人間としての在り方・生き方の教育を推進し、豊かな人間性を育む。	A	
	(3) 東風クラブ(カウンスル、コミティー、パーティー、クラス)や学校行事、部活動などの特別活動を推進し、生徒間の交流を活性化させ、生徒の自主的・実践的な態度や社会性、自尊感情・自己有用感などの人間性を育む。	A	
	(4) ボランティア活動や挨拶・服装等の向上を図るマナーアップ運動を展開し、社会人として必要なルールやマナーの基礎を育てる。	B	
不登校生徒や発達障害の傾向を持つ生徒への支援の充実	(1) 不登校生徒や発達障害の傾向をもった生徒に対して、学校あげて全教職員が一致協力して組織的に対応する。その集約は、教育相談担当教員が行い、具体的な対応の方策を提案する。	A	A
	(2) 不登校生徒に対して、担任、教育相談担当教員及びスクールカウンセラーが定期的にカウンセリングを行い、また、家庭訪問や電話連絡を通して保護者との連携を密にし、外部の相談機関などの協力を得ながら、ケース会議を開いて具体的な係わりを明確にし、不登校の改善を図る。	A	
	(3) 発達障害の傾向を持つ生徒に対して、その障害の把握と理解を図り、ケース会議を開いて個々の生徒への関わりを明確にし、全教職員の共通理解のもとに対応し、その対象生徒が安定した学校生活を送れるようにする。	B	
開かれた学校作りの推進と募集定員の確保	(1) 広報誌(学校案内、各種パンフレット)を発行し、また、ホームページを充実させることにより、情報発信を積極的に行う。	A	A
	(2) 学校行事(東風祭、芸術鑑賞会など)や授業(教科、道徳など)を地域や保護者、中学生などに一般公開することにより、本校の教育活動の理解と周知を図る。	B	
	(3) 中学校や塾の教員対象の説明会を実施し、また、中学校や塾を積極的に訪問することにより、中学校や塾との連携強化と教員との信頼関係の構築を図る。	A	
	(4) 学校見学会、入試説明会及び入試対策学習会を実施し、本校への入学の動機づけを強固なものとする。	A	

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	1 日々の確実な業務遂行により，学校の教育業務を円滑に進める。	(1) 各種の実施計画原案を1ヶ月前に作成する。 (2) 関係部署との連絡調整を徹底する。	B	B	<教育計画> 他部署との連絡調整を，早期に確実にを行い，教職員・生徒に不便さを感じさせないように努めたい。 <係分担・業務遂行> 正副の役割分担や業務遂行確認をしっかりとし，遅滞なく業務遂行できるよう相互に努めたい。 <ICT> 研修を充実させ，ICT機器を効果的に活用した公開授業を随時行うなどの手立てを講じたい。
	2 担当係以外にも業務を理解し相互に補完する体制を作り，運用する。	(1) 係ごとに正副の担当者を配置し，相互に業務にあたる。 (2) 各係とも前年度の業務内容の引き継ぎを確実にして，運営面での抜けをなくす。	B		
	3 教員の授業力向上を図る（教育計画） ・授業計画の作成 ・研究授業の実施 ・ICT機器の効果的な活用	(1) カリキュラムの適正な実施に常に注視し，履行できるようにする。 (2) シラバスの作成を授業単位で作成するよう依頼し，授業計画と評価規準を明確にする。計画に沿って実施されているかを長期休業前に確認し，軌道修正と注意喚起をする。 (3) 研究公開授業を教員ごとに年1回以上実施する。公開授業強化週間を設定し，順次できるようにし，公開授業後に観察教員の意見を集約	B		

		して周知する。 (4) ICT教育の活性化に向けて、実験と研鑽を積める機会を設ける。			
	4 授業の振替の徹底 (時間割) ・自習時間を極力なくすようにする。	(1) 授業担当者間での変更を原則とするが、振替案を提示する。 (2) 授業の抜けを防ぐ。自習時間をなくし、授業振替達成率100%を目指す。(授業時間の確保) (3) 定期考査監督割り業務を輪番制にして、チェック体制を強化する。 (4) マニュアル化して、業務を円滑に引き継げる環境をつくる。	B		<時間割> 考査関連の計画・周知は、早期にできた。特編授業の対応が、やや遅れることがあった。計画的に余裕を持って対応したい。また、多くの教員が業務に係わる数が少なかったが、マニュアルの作成ができているので、次年度以降活用したい。
	5 教科書・副教材の集約と事務処理の徹底 (教科書)	(1) 次年度使用教科書の取りまとめと確認作業を正確に行う。 (2) 教科書販売の企画や運営を円滑に行う。	B		<教科書・副教材> 年度当初の配付・集計に、各教科の支援をもらった。もう少しスピーディーに業務遂行を目指したい。
	6 正確な数値と生徒異動の管理 (文書統計)	(1) 月別異動報告の把握と報告をする。 (2) 会議録など文書帳簿類の管理を徹底する。 (3) 定期考査の後に成績個表を早期発行し、生徒の学習意欲を向上させ	A		<文書統計> 遅滞なく統計処理ができた。 一方で、教務支援システムへの入力期日の提示や確認作業が遅れてしまったので、円滑にできるように改善したい。

		る。			奨学金の手続き，特に保護者との対応をマニュアル化し，円滑な対応ができるようにしたい。
	7 教職員使用の消耗備品適正数の把握と管理 (備品)	(1) 教室の学習環境を整え，授業などの学習活動がスムーズに行えるようにする。 (2) 適正な数の把握をし，消耗品の費用を抑える。	A		<備品> 在庫調査を行い，教職員の教育活動・教育事務作業に不便なくできた。
	8 図書館担当の事務職員との連絡調整の徹底 (図書)	(1) 図書室を開室し，学習する場を提供する。	A		<図書> 図書館司書とともに円滑な運営ができた。
	9 情報集約と確実な配車 (バス配車)	(1) 学校行事などの特別編成時に抜けないようにする。 (2) バス運行会社との連携を密にし，安全運行に寄与する。	B		<バス> 生徒数の増加に伴い乗車数も増えた。生徒への確実な連絡方法の見直しが必要と感じる。 次年度，定期券購入方法の変更をするので，しっかりとした運用体制と連絡告知をする必要がある。

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒指導部	1 交通ルールの遵守とマナーの向上	(1)交通安全指導の徹底。 (2)巡回・立哨指導の実施。 (3)自転車通学者への個別指導。	B	B	問題行動として特別指導を行った件数は令和3年度と同数あり,規範意識の向上が課題である。また,交通事故の発生件数も2件と令和3年度と同数であり,さらなる交通安全への意識の向上が課題である。 学校行事においては,東風クラブの活性化が課題である。令和4年度は,例年に比べ東風クラブの行事へのかかわりが多かったように感じるが,この傾向をさらに発展させていきたい。
	2 規範意識の向上	(1)面談における注意喚起。 (2)保護者への協力依頼。 (3)生徒への積極的な声掛け。 (4)掲示物等からの注意喚起。	B		
	3 問題となる行動の未然防止	(1)校内巡回の徹底。 (2)情報の収集と共有。 (3)各学年との連携。 (4)保健厚生部との連携。	B		
	4 学校行事の活性化と工夫	(1) 東風クラブ役員の指導。 (2) コミティ活動の活性化。 (3) 生徒の主体性の育成。	A		

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	1 将来に対して、夢や希望が持てるようにする。	進路講演会や、進路相談会を企画し、進路を考えるきっかけを作る 医療看護については、病院実習に変わる、校内体験の企画を増やす。	A	A	進路に対する意識付けの部分を強化する必要がある。校内外の進路行事の見直しと、校外での進路行事を増やし、考える機会を増やす。
	2 興味のある学問や職業に必要な進路知識や学力を身につけられるようにする。	講演会や体験学習と並行して、本校の状況に合わせ、大きく3つの分野（大学進学・専門学校・医療看護）の模擬試験を実施する。	A		医療系については、病院実習の代わりとなる内容が概ねできたが、病院側と協議を重ね、可能な範囲での実施を目指す。
	3 全生徒が卒業後の進路を決定できるよう、所属学年の進路指導部担当者が中心となって活躍する。	年間計画以外で、各学年独自の進路企画を行う。各学年に必要な内容を学年部と協議し、LHRを利用して行う。また、できるだけ仲介業者を通さず、直接各学校の入試担当者を迎えて本校で進路講演などを行う。	B		

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健厚生部	1 健康や安全に関する基本的な知識や習慣を身につけさせる。	(1) 保健厚生部長，養護教諭，学年部長，担任の連携を強化する。 (2) 保健だよりを発行する。保健に関する意識を高める。 (3) 新型コロナウイルス感染予防として，マスク着用の徹底や毎朝の検温，健康観察を行い，手洗いやアルコール消毒に努めさせる。	B		1 保健室利用報告によって，管理職，学年・担任との生徒情報共有がしっかりと出来ていた。検温・健康観察について実施はしたが，全確認は未達成だった。ファイル管理は行った。マスク着用は完璧だった。 次年度は，保護者との連携を深めていく為に，保護者会を機に情報提供・共有を実施したい。
	2 快適で安全な環境づくりに努める。	(1) 教室環境の整備をする。 (清掃用ロッカー， 傘立て等の管理・整備) (2) 環境美化の充実。 清掃活動や、清掃用具等の整備などを通じて，環境美化を図るとともに，物を大切に作る人間性を育む。	B	B	2 トイレ掃除のやり方を理解できていない班があった。4月に伝達する。また，普段の掃除を徹底させ，大掃除の時間を短縮したい。 3 関野先生による研修を2回。外部講師を招いての研修を2回実施。次年度も継続したい。 教育相談だよりを毎月発行した。
	3 教育相談の充実。	(1) 特別支援教育に関する情報を共有化することにより、素早くきめ細かい教育相談を行っていく。 (2) 教育相談だよりを発行する。人格の成長への援助を図る。	A		*エココミティを活用してアルコール，液体石鹸の補充実施。次年度も継続する。

令和3年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者の会の円滑な運営を図る。	(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者の会総会は、書面表決とする	A	A	1. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、保護者の会総会が開催できるかどうか、式典の来賓については、管理職と必ず相談のこと。
	2 地域的な活動に協力する。	(1) 自治体の判断により、参加不参加を決定する。	A		2. 地域への活動は、自治体等のホームページを必ず目を通し、イベント開催の有無を確認すること。
	3 対外的な諸活動を滞りなく行う。	(1) 式典のメッセージカードの発送、お礼状の発送、年賀状等の準備を早めに滞りなく行う。	A		

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
入試広報部	1 入学者を確保する。 入学者 160 名	(1) 推薦・単願受験者の増加 (2) 個別相談の充実 (3) 中学校・塾訪問の充実	A	A	女子生徒，医療看護進学コースの入学者を確保する。土曜日に実施する相談会を他部署と連携し，充実させる。
	2 受験者を確保する。 受験者数 750 名	(1) 説明会の充実 学校説明会 3 回 入試説明会 3 回 入試対策学習会 2 回 部活動体験会、入試相談会の実施 (2) 中学校・塾訪問の充実 (3) ホームページの充実	A		説明会の参加人数を増加させ，より多くの受験生に本校の魅力を知ってもらう。中学校訪問に向けた資料の作成や，訪問時期を検討することで説明会への参加を促し，受験者数の増加に繋げる。
	3 部署内での分担と情報の共有による組織化	(1) 担当を分担し，専門性を高める (2) 部会の回数を増やし，連携を深める	B		担当者における原案提示，部会での共有という流れを構築し，専門性の高まった業務を継続して繋げる体制を作る。

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
国語科	1 進路実現のための実力養成 ・語彙力 ・評論読解力・小説読解力 ・古文読解力・漢文読解力	(1) 特別進学コース・医療・看護進学コースを対象に授業内に入試対策として漢字・古語・語彙に関する小テストを実施する。 (2) 学期毎に、学習単元を評論と小説を交互に一つずつ扱う。特別進学コースでは入試問題演習を行う。 (3) 古文漢文は、概要を理解できるための基礎的事項習得を徹底する。	A	A	語彙力をつけるためには、実際に書かせる指導を継続して積み重ねる必要がある。従来の紙による反復だけでなく、視聴覚教材としてデジタルコンテンツの活用などの工夫が求められる。 定期考査対策にとどまらず、総合的な実践力を養成するために、模試や入試問題を取り扱う時間の確保し、結果を出すことでさらなる意識の向上を図ることを課題とする。
	2 社会生活を営むための基礎力養成 ・常用漢字を基本とする語彙力 ・一般教養としての国語基礎 ・表現力	(1) 進学コースを対象に授業内に常用漢字に関する小テストを実施する。 (2) 漢字検定や日本語検定の受検を奨励する。 (3) 作品創作や発表形式で「書く」・「話す」能力を養成する。	B		従来の読解力に増して、一層(3)の表現力をつけることが喫緊の課題である。iPadを活用、小論文トレーニングの実施を通じて授業内に学習時間の確保、展開の工夫が求められる。

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
地歴公民科	1 ICTを活用した授業づくり	(1) 写真や地図の拡大・縮小、画面への書き込み、映像視聴等から理解力を高める。 (2) タブレットを活用し、積極的に協働学習を行い、思考力、判断力、表現力等を育成する。	A	A	1 (1) (2) 主にロイロノートを用い、視聴覚授業や生徒の意見を共有するなど、生徒が受け身にならない工夫をした。また、2・3年生では、プレゼン資料を作り発表するなど、生徒が主体となる授業を実践した。 次年度以降も、引き続きタブレットを使用した授業展開を実践していく。
	2 進路目標に応じた受験指導	(1) 身近な社会的事象を題材として扱い、その原因と問題解決について分析し、筆記試験だけでなく、面接試験や小論文試験にも対応できる力を身につける。 (2) 演習授業や課外授業、個別指導などを行い、生徒の進路目標に応じた学力を育成する。	A		2 (1) 定期考査では、時事問題を取り入れ、普段から時事に関心を持てるような働きかけを行った。また、単元の終了時や、社会的な事象を取り上げた際には、論述させるなどの工夫を凝らした。次年度以降も継続して行う。
	3 教員の指導力向上	(1) 大学入学共通テストの過去問題、試行問題等から、求められる力を分析し、授業に反映する。 (2) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B		2 (2) 受験科目又は大学進学時の課題等で特に必要な生徒には個別に問題演習を行うなど、個々に合わせた取り組みを行った。次年度以降も継続して行う。

				3 (1) 大学入学共通テストから、傾向や対策について教科内で共有し合う必要がある。 3 (2) 今年度は各教員 2 回の研究授業を行った。各コースの特性を踏まえ、生徒が主体的に参加できる授業を考えていく。
--	--	--	--	---

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
数学科	1 基礎学力の定着	(1) 習熟度別授業や個に応じた指導を行う。教科書の基礎的な部分の理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。必要に応じて、放課後や長期休業などを活用して個別指導を行う。	A	B	・タブレットPCや電子黒板を活用したICT教育の充実を図る。 ・新課程に対応した一般選抜試験の研究をする。 ・ICT教材を利用して課題等を配信し、継続的な学習習慣を身に付けさせる。 ・課外授業や家庭学習の時間を利用し、問題演習の時間を増やす。
	2 継続的な学習習慣の育成	(1) 授業ノートや演習ノートの点検を随時行う。また、定期的に宿題を課し家庭学習の習慣化を図るとともに、小テストを実施し、学習への意欲を喚起させる。	B		
	3 進路目標に応じた受験指導	(1) 進路目標別授業を実施し、大学入試、専門学校入試、公務員試験、就職試験など、それぞれに対応する演習を行う。 (2) 演習授業や放課後や個別指導などを利用して、生徒の進路目標に応じた数学の学力を育成する。	B		

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
理科	1 学習意欲を高める。	(1) 知的好奇心や探求心を持たせるため、目的意識を持って観察・実験を行う。 (2) 教科書、教科書傍用問題集を主に使い、予習復習がしやすいようにする。 (3) パワーポイントや動画を用いて視覚にうったえた授業を展開する。	B		動画視聴が良かったため、さらに続けていきたい。また、実験の回数を増やしていく。
	2 思考力・表現力を高める。	(1) 人前で発表するのが苦手な生徒が多いので、まずは書くことにより、表現力を身につけさせる。 (2) 演示などの実験を通じ、レポート作成をさせる。他者の意見を聞いて新しい考えに気付いたり、自分の考えを再確認したりしながら、自分の意見を他者に分かりやすく伝えられるようにする。 (3) 発表など能動的な授業態度を評価していく。	B	B	選択授業では意見交換の時間がとれたが、大人数になってしまうと意見交換の時間が取れなくなってしまった。そのため、ロイロノートなどを使い意見交換を行う。

	3 知識・理解の定着を図る。	(1) 単元ごとの小テストを実施し、学力の定着に努める。 (2) 定期考査対策として教科書傍用問題集や、スタディーサプリ（TTC教育）を活用し、知識・理解の定着を図る。	B		スタディーサプリの活用を充実させる。
	4 進路希望に応じた指導をする。	(1) 課外を実施し、受験に向けた基礎から応用までの指導をする。 (2) 受験に向かわせるために、レポート制作を取り入れ、推薦・総合型入試対策を企画する。	B		実験を行い、レポート制作の充実を図り受験の対策に活用する。

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
英語科	1 基礎学力を重視した学習活動の展開	(1) 生徒の学習状況を理解し、生徒の状況に応じた授業を展開する。基礎的な英文法を反復し、発展できる土台を作る。 (2) 特別進学クラスでは、共通テストを意識し、リスニングと速読を中心とする。進学クラスでは、生徒が主体的に取り組める活動を取り入れる。	A		(1) 基礎基本の定着を図るべく、反復学習を行った。必要であれば、既習事項に戻り、発展につなげる学習の展開を図った。個々の達成度を確認しながらの展開のため、進学クラスでは学習進度がやや緩やかになった。 (2) 特別進学クラスにおいて、共通テストを意識した授業を展開することができた。ALT との活動を通し、生徒は主体的に活動することができた。
	2 ICT（情報技術）を用いた授業の展開	(1) ICT（情報技術）利用が目的とならない利用方法を教科内で共有する。 (2) 他教科における ICT（情報技術）の利用方法を参考とし、英語科における活用方法を検討する。 (3) ロイロノート・スクールを利用しながら、生徒の実態に応じた利用する。	B	B	(1)(3) ICT（情報技術）を効果的に使用することができた。また、ICT（情報技術）に頼りすぎない意識を持ち授業を展開した。また、年間を通し、ロイロノートを効果的に授業に用いることができた。音読テストなどで活用した。 (2) 研究授業を通し、他教科での ICT（情報技術）利用方法について学ぶことができた。
	3 学び続ける教員 ・民間の英語4技能検定の受験 ・問題研究 ・研究授業を一回以上実施する	(1) 英検、TOEIC など、民間英語4技能検定を受験または過去問を解き、自分なりの教え方を確立する。 (2) 共通テスト筆記100点・リスニング100点を全教員が目指す。 (3) 生徒が主体性をもって取り組める授業を日頃より意識する。他者の授業を見て自分の授業を改善する。	B		(1) 英検、TOEIC など、自らの資質向上のため、各種検定に取り組んだ。また、受験できなかった教員も問題を見るなどし、傾向をつかむ努力を行った。 (2) 各教員とも、進路指導の一環として共通テスト過去問に目を通し指導にあたった。また、共通テスト後は、各自問題を解き、次年度に生かしていく。 (3) 英語科内に留まらず、他教科を含む多くの先生の授業を見学する様にした。また、自身の授業に活かすようにした。

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健体育科	1 興味・関心を引き出せる指導の工夫	(1) 生徒の実態に応じた簡易ゲームなどを取り入れ、生徒の競技への関心を高める。	A	A	生徒の適正に合わせた体育実技が展開できた。1年生は基礎を学び、2，3年生で実践することができた。 さらに習熟度の授業を積極的に進めていきたい。 保健の授業においては、生徒の実態に合わせて、工夫した授業が展開できた。 さらにさまざまな生徒に対応するために、今年度以上にタブレットを使用し、グループでの学習を改善したい。
	2 実技テストの導入	(1) 授業に合わせた実技テストを導入する。 (2) 能力に応じてテストの内容を工夫する。	A		
	3 授業中の服装の徹底	(1) 授業前に確認を必ず行う。 Tシャツの確認を行い、健康に留意する習慣をつくる。	A		

	4 保健の授業に於いて生徒を積極的に授業に参加させる工夫	(1) グループ学習や、発問を工夫して、多くの生徒が参加できる授業を行う。 (2) IPAD を積極的に活用させる。	A		
--	------------------------------	---	---	--	--

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
情報科	1 パソコン室のシステムの理解 (生徒・教員)と安定的な運用。	主に、google アカウントの管理・作成、パソコンやプリンタの保守管理	B	A	Windows10のサポート終了が2025年であるため、パソコン室のパソコンの買い替えに向けての対応を考え始める必要がある。
	2 高校卒業後に困らないような基本的な技術の習得	携帯端末(スマートフォンやタブレット)は操作できるが、パソコンになれていない生徒が多く、進学や就職時に困る生徒が多い。情報科では、パソコンを使うことを中心にする。	A		新2年生から新課程(情報Ⅰ)になるため、指導内容の研究をする。特に、プログラミング(Python)の指導については、新しく追加される分野であるため、教員側の研修が必要である。
	3 情報モラルの向上	SNSに関するトラブル指導,著作権など法律に関わる指導は丁寧に繰り返して指導する。	A		生徒用PCでPythonが使えるよう、ソフトのインストールをする必要である。

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
芸術科 (音楽Ⅰ・ 美術Ⅰ・ 書道Ⅰ)	1 生徒一人一人の個性に応じた感性を引き出し、伸長する。	(1) 芸術的表現力(演奏・表現・書写)や技術の向上を図る。 (2) 作品鑑賞を通して、自己や他者の価値意識を育てる。 (3) 指導者の経験値や考えを強調しすぎないようにする。	A	A	コロナ禍の影響で、歌唱指導・演奏指導の実技指導時間が不足気味であった。 古典芸能・伝統芸能の理解のため、芸術共通のコラボレーション授業の実施が叶わなかったため、次年度は実施したい。 これにより生徒がそれぞれ選択している科目以外の内容理解と興味関心を引き出すチャンスとなり、生徒個々の情報発信の一端になることが期待できると考える。
	2 我が国の伝統芸能の一端を理解し、尊重する態度を養う。	(1) 古典芸術の作品に触れる機会を多くする。 (2) 伝統芸能(邦楽・雅楽、工芸、書道)の技法や歴史を理解する。 (3) 日本独自の芸術文化をアピールする材料を探り、生徒自身が情報発信できるようにする。	A		

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第1学年	1 基本的生活習慣の確立	(1) HR、道徳を通して、挨拶・返事を励行し、習慣化を促す。 (2) 手帳・classroomを活用し、自己管理できる力を身に付ける。 (3) 生徒指導部と連携し、服装、身だしなみを整える。	B	B	(1) 挨拶・返事が定着。継続して励行する。 (2) 夜更かし等による遅刻、欠席について家庭との協力、タブレット端末による自己管理の強化で改善を図る。 (3) 一部、Yシャツの第一ボタンをとめる、スカートを折って丈を短くしない指導の徹底を要する。
	2 基礎学力の養成	(1) 各教科と連携し、成績不振者、課題未提出者等を把握、注意喚起を促す。 (2) 小テスト・定期考査対策として朝自習を実施し、学習習慣を定着させる。 (3) 面談・手帳を通じて学習状況を把握し、適切なアドバイスをする。	B		(1) 有効であり、次年度も継続する。 (2) 定期考査直前、放課後の対策授業の充実を図る。 (3) タブレット端末による自己管理の強化で家庭学習の定着を図る。
	3 円滑な対人関係を育み、持続させる能力の育成	(1) SST（ソーシャルスキルトレーニング）を通して実践力をつける。 (2) 学校行事、HR、授業内のグループワーク等他者と関わる機会を促す。 (3) 教育相談担当と連携し、人間関係の調整、支援をする。	A		(1) 有効であり、次年度も継続を希望する。 (2) SNSの正しい使い方、異性間の人間関係について指導を要する。 (3) 事後対応に迫われ、連携強化による事前の予防的対応が喫緊の課題である。

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年	1 基本的生活習慣・学習習慣の確立	(1) 挨拶・返事の指導の重視 (2) 遅刻・欠席をしないようにする指導 (3) 学校内のルールについての共通理解（特に身だしなみ） (4) 課外授業の推進・スタサプの活用 (5) 朝の読書推進	B	A	将来のために、規則正しい生活習慣を見につける。 生徒の情報共有を徹底して、生徒指導に繋げる
	2 人間関係を築く力と将来の夢の育成	(1) 道徳、特活、学校行事を通して人と関わる力を養う。 (2) 進路企画を通して、キャリア教育を育む。	A		積極的に学校行事に取り組み、進路実現につなげる。
	3 部活動や特別活動の推進	(1) 部活動や学校行事に対して積極的に参加し、自ら考え協力して活動できる機会を作る。 (2) 沖縄修学旅行に向けて平和学習	A		最上級生としてリーダーシップを発揮する。
	4 ICT教育の充実	(1) 連絡手段として、Googleclassroomを使用し、毎日チェックする習慣をつける。 (2) 道徳では、ロイロノートを有効に使用する。	A		さらなるICT教育の充実を図り、学力向上や社会に適した人材を目指す。

令和4年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第3学年	1 面談を通した生徒理解と適切な進路指導の実践	(1) 定期的に生徒面談を実施し、良好な関係を築く。年間5回以上の面談を目標とする。 (2) 夏季休業を利用し、保護者・生徒との三者面談を実施する。進路未決定者に対しては、冬季休業中に三者面談を実施し、進路決定に向けた支援を行う。 (3) 生徒の希望を最大限叶えるため、日々の学習指導、進路指導を行う。	A		(1) (2)年間5回を目安として面談を行った。必要であれば、回数を増やし、生活指導・進路指導を行った。適宜面談を行いながら、受験に伴う不安を払拭した。また、保護者とも夏季休業中に面談を行い、信頼を築き、共に希望進路実現に向け協働することができた。 (3)進路未決定者数名を除き、概ね希望進路を実現することができた。また、一般入試において合格する生徒が多かった。
	2 社会で活躍できる人材を意識した取り組み	(1) 手帳を用い、起床時間・就寝時間を日々記録する。また、自ら予定を管理し、必要なものを準備する習慣を身につける。 (2) 学年目標(規矩準縄)を常に意識させ、個々に規範意識を持たせる。道徳、LHR等で具体的な事例を取り上げ、どうすべきかを考える場を設ける。 (3) 社会に関心を持たせ、個々が負うべき役割と義務を学ぶ機会を設ける。 (4) 考え議論する道徳を継続し、社会で通用する道徳観を身につける。	B	B	(1) 学年として手帳の利用率を上げる取り組みを継続することができなかった。進路指導が優先となり手帳の管理が疎かになった。生活のリズム作り、学習計画作りが生徒任せになった。 (2) 学年として規範意識を上げる機会を創出した。また、各クラスにおいて問題があれば、クラスのルールとその影響について考え、自ら行動を律する機会とした。 (3), (4) 道徳、LHR、学年集会、租税教室、行政相談講座等を通し、大人としての責任と振舞いを自覚させることができた。また、社会と自身の関りについても考えることができた。